

News LETTER

教育開発支援

November 2025

No.

51

オンデマンド型授業における動画公開手順について.....	01～03
令和7年度 GPS-Academicの分析結果について.....	03～06
令和6年度 卒業生アンケートの結果について.....	07～08

オンデマンド型授業における動画公開手順について

教育開発支援委員会

本学では、令和8年度のカリキュラム改正と併せて学事暦の見直しも行われ、令和7年10月23日付の学長文書「令和8年度以降における各学期初回授業の運営方法について（願）」にある通り、各学期（前期・後期）の初回授業を極力オンデマンド型授業とすることになりました。同文書にある通り、オンデマンド型授業の教材は動画に限らず、必要な内容（授業のテーマと到達目標、授業の内容、成績評価の方法とその基準等）が含まれていれば、形式は問われていません。しかしながら、これを機会に、スライドに音声を加えた教材（いわゆる、音声付きプレゼンテーション動画）や教員による説明を録画した動画を作成し、学生への公開を試みる先生もいらっしゃるかもしれません。ここでは、作成した動画をYouTubeにアップロードし、Google Classroomで学生に向けて公開する手順について説明します。

1. 前提条件

- 使用するのは専修大学Gmailアカウント（アカウント名が、thx1138@senshu-u.jp）です。
- アップロードする授業動画ファイル（MP4形式など）の作成については、ご利用のプレゼンテーションソフトや動画編集アプリケーションのマニュアル等をご参照ください。

2. YouTubeチャンネルの開設

YouTubeチャンネルとは、YouTube上における、個人や組織専用の「拠点」や「ホームページ」のようなものです。作成した動画をインターネット上にアップロードし、保管しておくための「場所」とお考え下さい。今回のように授業動画をアップロードする場合、その動画はこの「チャンネル」に紐づけられて保存されます。なお、初回のみ、ご自身のアカウントにYouTubeチャンネルを作成する必要があります。

- ①Webブラウザで YouTube (youtube.com) にアクセスします。
- ②右上のアイコンをクリックし、大学のGoogleアカウントでログインしていることを確認します。
- ③再度、右上のアイコンをクリックし、メニューから「チャンネルを作成」を選択します。
- ④チャンネル名（教員名など、学生に分かりやすい名前が望ましい）を設定し、画面の指示に従って作成を完了します。



3. 授業動画をアップロードする

YouTubeチャンネル開設後、動画ファイルをYouTubeにアップロードします。YouTubeの画面右上にある「+作成」をクリックし、「動画をアップロード」を選択します。

4. 15分以上の動画をアップロードする場合の事前認証

デフォルト設定では、15分までの動画しかアップロードできません。15分を超える動画を扱う場合は、事前に電話番号によるアカウント認証が必要です。以下のいずれかの方法で認証を行ってください。

(1) 直接リンクからアクセスする

大学のGoogleアカウントでGoogle Chromeなどのブラウザにログインしていることを確認します。https://www.youtube.com/verifyにアクセスすると、自動的に「電話番号の確認」ステップに進みますので、そのまま画面の指示に従ってください。

(2) YouTube Studioのメニューからアクセスする

YouTube (youtube.com) にアクセスし、右上のアイコンから大学のGoogleアカウントでログインしていることを確認し、右上のプロフィールアイコン（円形のアイコン）をクリックして表示されたメニューから「YouTube Studio」を選択します。「YouTube Studio」の画面が開きますので、画面左側にあるメニューバーの「設定」（歯車のアイコン）をクリックします。「チャンネル」を選択し、「機能の利用資格」タ

ブを開き、「中級者向け機能」項目の右側にある「利用資格あり」または「▼」をクリックして詳細を開き、「電話番号を確認」という青いボタンをクリックして認証に進みます。画面の指示に従い、電話番号（スマートフォンのSMSまたは自動音声通話）を使用して認証コードを受け取り、入力して確認を完了します。

5. 動画の詳細を設定する

動画のアップロード処理中に、タイトルや視聴者層など、動画の基本情報を設定します。

- タイトル（必須）：学生が内容を把握できるタイトルを入力します。（例：「〇〇入門第1回オンデマンド授業動画」）
- 説明（任意）：動画の概要や補足事項を記入できます。
- 視聴者（必須）：「いいえ、子ども向けではありません」を選択してください。（これが選択されていないと、機能が制限されます）
- その他の項目（サムネイル、再生リストなど）は任意で設定し、「次へ」をクリックします。
- 「動画の要素」「チェック」の画面は、特に設定がなければそのまま「次へ」をクリックして進みます。
- 「公開設定」の画面では、必ず「非公開」を選択してください。

公開設定

動画の公開日時と、視聴できるユーザーを選択します。

保存または公開

動画は公開、限定公開、非公開のいずれかにします。

☒ **非公開**

自分と自分が選択したユーザーのみが動画を視聴できます

☐ 限定公開

動画のリンクを知っているユーザーが動画を視聴できます

☐ 公開

全員が動画を視聴できます

「非公開」を選択した状態で、「動画を非公開で共有」というグレーのリンクをクリックします。「動画を非公開で共有」のポップアップウィンドウが表示されたら、「☐ senshu-u.jpの全員と共有する」をチェックしてください。

動画を非公開で共有

以下にメールアドレスを入力して、他のユーザーが非公開動画を閲覧できるように招待できます。非公開動画を閲覧するためには、招待されたユーザーは自分のGoogleアカウントにログインする必要があります。

招待するユーザー

☒ senshu-u.jpの全員と共有する

☐ メールで通知する

キャンセル

完了

入力が完了したら「完了」を押し、最後に右下の「保存」をクリックします。

6. Google Classroomでリンクを共有する

「非公開」設定の動画は、一般には公開されませんので、Google Classroomにリンクを貼ることで、学生に動画へアクセスさせます。

まず、アップロードした動画のリンクを取得します。YouTube Studio左側のメニューから「コンテンツ」を選択し、該当の動画にカーソルを合わせるとアイコンがいくつか現れますので、「オプション」（3点リーダーのアイコン）を選び、「共有可能なリンクを取得」してください。

次に、該当する授業のGoogle Classroomにアクセスします。「授業」タブを開きます。「作成」をクリックし、「資料」（または「課題」「お知らせ」など）を選択します。資料のタイトルを入力してください。下側の添付欄の「YouTube」ボタンをクリックし、表示された入力欄に、先ほどの「共有可能なリンクを取得」でコピーしたYouTubeの動画リンクを貼り付け、検索して確認したのち、「動画を追加」をクリックします。右上の「投稿」（または「予定を設定」）をクリックして、学生に共有します。

なお、学生側から見たときに、学生が専修大学アカウントでログインしたブラウザで視聴した場合でも「この動画は非公開です」と出ることがありますが、これは「一般の（招待されていない）人には見せません」という意味の表示であり、エラーではありません。「YouTubeでみる」を押せば視聴できます。

7. Google Classroomに直接アップロードする場合との比較

Classroomの「授業」タブから「資料」や「課題」を作成する際に、「追加」→「ファイル」を選び、ご自身のPCやGoogle Driveから動画ファイルを直接アップロードする方法もあります。表にGoogle Classroomに直接アップロードする場合とYouTube経由でリンクを共有する場合のメリットとデメリットをまとめました。

表 動画共有の方法の違いによるメリットとデメリット

	Classroomに直接アップロード	YouTube経由でリンクを共有
学生の視聴環境	△(やや不便)	◎(快適)
教員の容量管理	×(容量を圧迫)	◎(容量を消費しない)
動画の処理速度	△(時間がかかる場合あり)	◎(高速・最適化)
アクセシビリティ	△(字幕機能が限定的)	◎(強力な自動字幕)
アクセス管理の手間	◎(非常に簡単)	◎(ドメイン内共有で簡単)
コンテンツの再利用	△(Classroom内に限定)	◎(リンクで自由に再利用)
ダウンロードの禁止	△(ファイルごとに毎回設定)	○(そのままではDL不可)

(1) 学生の視聴環境

Classroomへの直接アップロードの場合、YouTubeのように、視聴者の回線速度に合わせて自動で画質を調整する機能がないか、または限定的です。YouTube経由でリンクを共有する場合、学生の視聴環境・回線品質に応じて、最適な画質（HD,SDなど）が自動で選択され、途切れにくい快適な視聴が可能です。

オンデマンド型授業における動画公開手順について

(2) 教員の容量管理

Classroomへの直接アップロードの場合、Google Driveの容量を圧迫する場合があります。特に、高画質な動画はファイルサイズが非常に大きいため、数回の授業で容量が不足する危険性があります。一方、YouTubeへの動画アップロードは、Google Driveの容量とは別枠で扱われるため、実質、容量無制限で授業動画を保管できます。

(3) アクセシビリティ

Classroomへの直接アップロードの場合、YouTubeほど高精度な自動字幕起こし機能は期待できません。一方、YouTubeへの動画アップロードの場合、アップロード後、自動で字幕が生成されます（ただし、以前の教育開発支援NEWSLETTERで触れた通り、同音異義語などについての精度が低いことがありますので、確認は必要です）。聴覚に障がいのある学生、日本語を母語としない学生への配慮や、音が出せない場所での視聴にも役立ちます。

(4) 動画ファイルのダウンロード・外部流出

Classroomへの直接アップロードの場合、学生の画面には、デフォルトで「ダウンロード」ボタンが表示されるため、学生は元動画のファイル（.mp4など）を自分のPCに簡単に保存できてしまいます。それを防ぐには、教員の側で毎回のファイルごとに「閲覧者のダウンロードを無効にする」設定を行う必要があります。一方、YouTubeの標準的な視聴画面には、「ダウンロード」ボタンは表示されず、別のアプリケーションなどを使わない限り、ダウンロードできませんので、安易なダウンロードを防ぐことができます。また、YouTube動画のリンクが専修大学の外の方に伝わったとしても、「□senshu-u.jpの全員と共有する」がチェックされていれば、専修大学のアカウントでログインしている環境以外で視聴することはできません。

動画がおおよそ5分以内とごく短いもので、容量が少ない場合はClassroomへの直接アップロードの方が、YouTubeチャンネル開設等の初期設定がない分手軽ですが、中長期的に授業運営を行う上では、視聴環境、アクセシビリティ、容量管理、コンテンツの再利用性など、あらゆる面でYouTube経由での共有が優れていると言えます。

令和7年度 GPS-Academicの分析結果について

教育開発支援委員会・教務課IR担当

1. 今年度の受検状況

GPS-Academicは、かつて実施していた「大学生基礎力レポートⅠ・Ⅱ」から切り替えて今年で7回目の実施

となる。本年度から学生へ「受検案内メール」を一斉送信する機能を活用したことで、例年よりも大幅に受検者数が増加した。

表 GPS-Academicの受検状況

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
1年次	2951(76.5%)	3487(80.0%)	3044(72.9%)	2492(54.8%)	2759(61.5%)	325(6.9%)	2961(67.3%)
2年次	1358(33.9%)	290(7.5%)	1945(46.5%)	1087(26.1%)	572(13.4%)	240(5.5%)	1348(30.5%)
3年次	1160(28.3%)	138(3.5%)	988(26.0%)	979(23.9%)	308(7.7%)	221(5.4%)	1424(32.8%)
4年次以上	548(11.4%)	64(1.3%)	145(3.3%)	204(4.8%)	211(5.0%)	132(2.9%)	811(18.3%)

2. 分析のポイント

GPS-Academicの概要については、本誌第39号に掲載しているため、そちらを参照いただくこととし（専修大学HPトップ／学生生活／授業・履修情報／教育開発支援NEWSLETTER）、教育開発支援委員会および教務課IR担当者では、今年度も昨年度と同様に分析ポイントを以下の2点に絞ることとした。

(1) 卒業認定・学位授与の方針の検証

(2) パネルデータを用いた学修成果の検証

「(1) 卒業認定・学位授与の方針の検証」は、前年度以前から取り組んでいるものであり、継続して分析・検証することが重要であるため、本年度に関しても同様の分析を行った。次に、「(2) パネルデータを用いた学修成果の検証」では、6年間で収集できたGPS-Academicの結果をパネルデータ化し、GPS-Academicの主要スコアの変化について検証した。昨年度もパネルデータを用いた分析を行ったが、今年度はGPS-Academicの主要スコアそのものの経年変化を観察することで、学生の変化の確認および逆行推論（アブダクション）を試みることにした。

(1) 卒業認定・学位授与の方針の検証

本学では、学士課程全体の卒業認定・学位授与の方針（以下、「DP」という）において、次の4つの項目を身につけなければならない資質・能力として掲げ、各学部・学科では、これを踏まえてそれぞれのDPを策定している。

[DP 1] 社会知性の核となる、専門的および一般的な知識を体系的に理解し、それらを説明することができる。（知識・理解）

[DP 2] 言語運用能力、情報・データリテラシーを身につけ、それらを活用することができる。（汎用的技能）

[DP 3] 知識体系を基盤とした思考方法を用いて、地球的視野から創造的に社会の諸課題に取り組むことができる。（知識体系に基づく思考と知の創出）

[DP 4] 「社会知性」の意義を理解した上で、人間理解、倫理観を基礎にして、社会生活上の諸課題の解決に取り組んでいける能力を更新し続けることができる。（態度・志向性）

以下ではまず、これらのDPの学生認知度について確認し、次いで成長実感の自己評価項目の集計結果を示す。

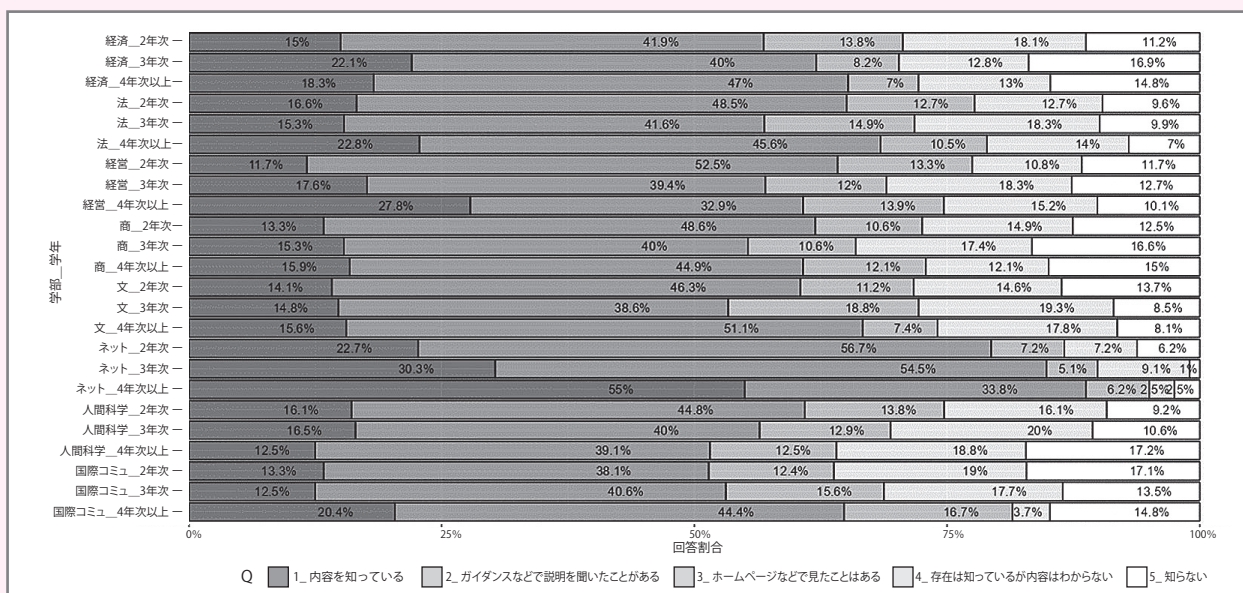
(i) DPの認知度

DPは、大学のホームページに掲載するとともに、2018年度からは各学部・学科のDPを学修ガイドブックにも掲載している。

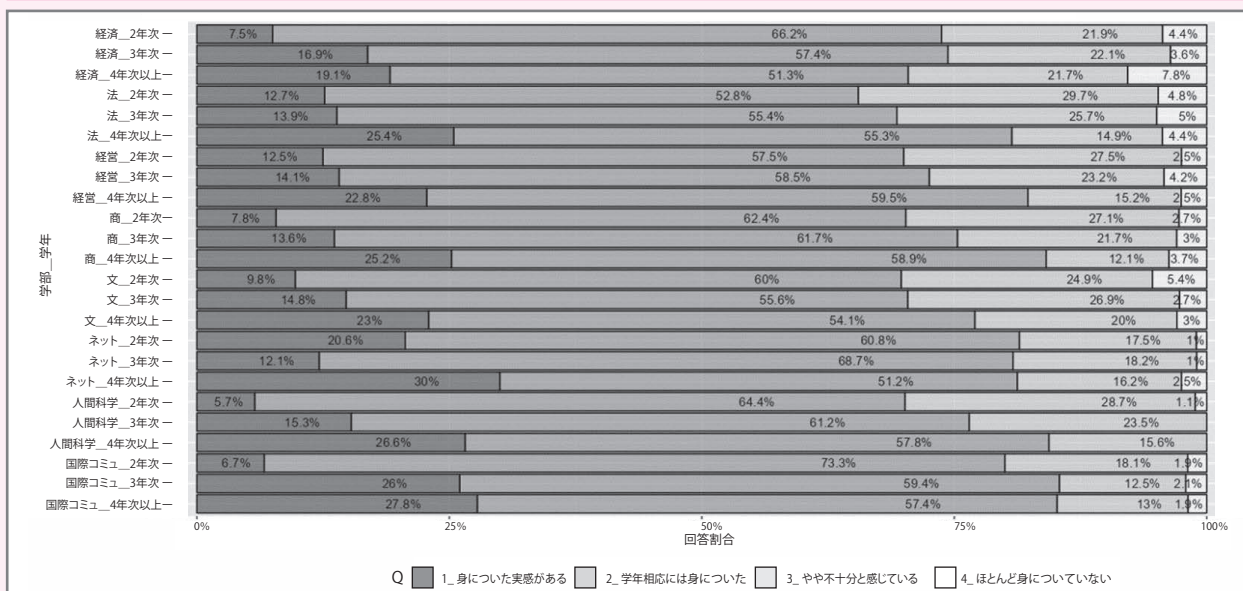
DPの認知度については、大学独自設問として例年同様の質問項目を設定している。学部によって多少の違いはあるものの、「内容を知っている」、「説明を聞いたことがある」を回答した学生がほとんどの

学部・学年で50%以上であり、昨年度までと同様の傾向である。学部や学年によって「ガイダンスなどで説明を聞いたことがある」や「ホームページなどで見たことはある」の回答割合に違いが見られることから、全体的に教育課程に対する認識を高めるためには、全学的なガイダンスの強化や、学生がより身近に教育方針に触れることができる機会を増やすことが求められる。また、ネットワーク情報学部では、年次進行とともに認知度が上昇する傾向が顕著であり、ガイダンス等での説明方法を共有することで、全学的な認知度アップが期待される。

大学が定めている「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」および「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を知っていますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。【大学独自設問】



大学におけるこれまでの学修を通して、所属する学部・学科の専門的な知識や技能、思考方法について、あなた自身どの程度身についたと感じていますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。【大学独自設問】



令和7年度 GPS-Academicの分析結果について

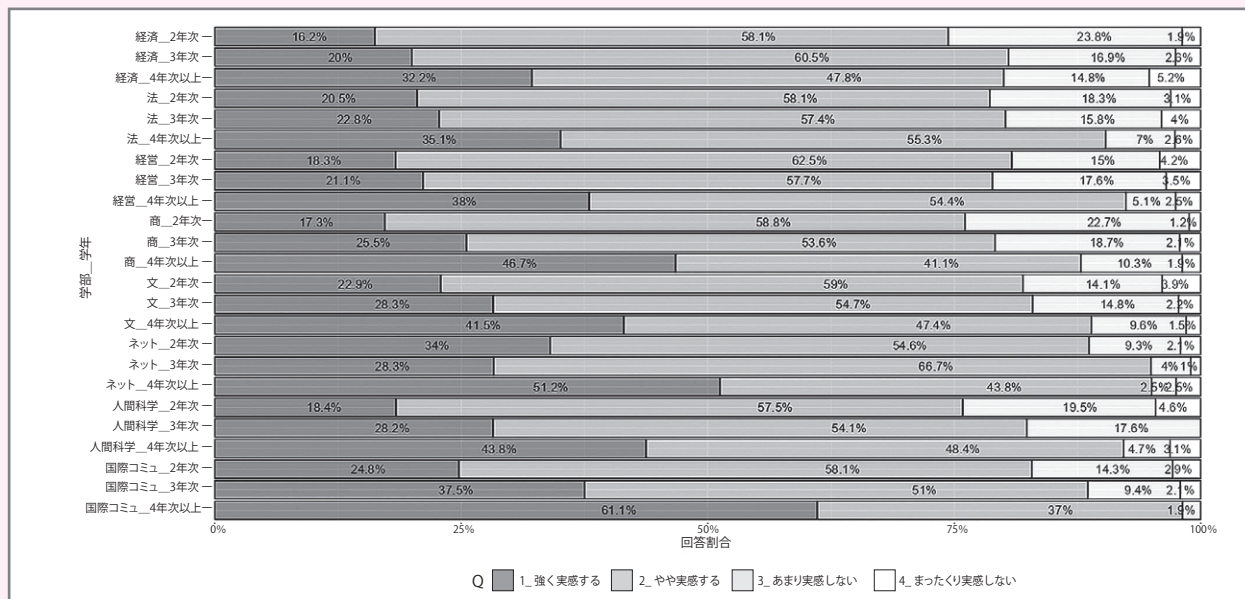
(ii) 学修成果の自己評価

次に学修成果に関する自己評価に関して、専門的な知識・技能に関する自己評価、成長実感の二つの項目を取り上げる。学年が上がるごとに「身につけている」と感じる学生が増える傾向がある。特に4年次以上の学生は多くが肯定的な回答をしており、大学生活の集大成として、学びが具体化される時期であると考えられる。逆に言えば、低学年の段階で学びの重要性や実感をより強めるための取り組みが改善に有効である

可能性が示唆され、より実践的な学習機会の提供などが考えられる。

また、成長実感の項目でも同様に、肯定回答の割合が多い。高学年ほど成長を強く実感する傾向が見られ、特に3年次以降で「やや実感する」または「強く実感する」と回答する割合が増えている。低学年に対して成長の実感を得られるようにするため、学びの成果をより可視化する手法や、自己成長を感じるための振り返りの機会を増やすことが有効であると考えられる。

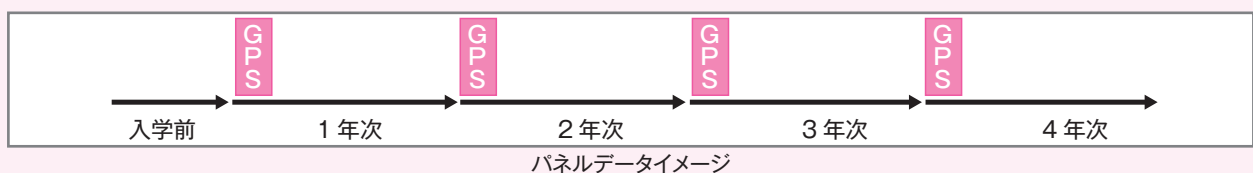
成長実感 (GPS-Academic 共通設問)



(2) パネルデータを用いた学修成果の検証

大学での学修行動がGPS-Academicのスコアにどのような変化をもたらすか検証するために、2018年度～2021年度の入学者のうち、GPS-Academicを4回すべ

て受検したパネルデータが作成できる学生を抽出し、データセットを作成した。その結果、合計354名のパネルデータが得られた。



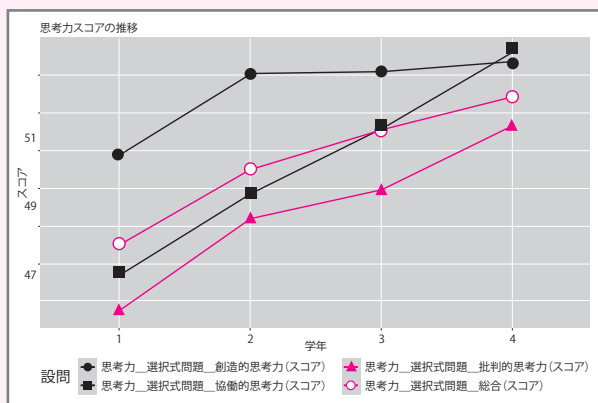
GPS-Academicの測定項目は下図のようになっており、主に①思考力、②姿勢・態度、③経験、④アンケートの大項目からなっている。

GPS-Academic 測定項目		学力の3要素	新・社会人基礎力
思考力	批判的思考力	思考力 判断力 表現力	考え抜く力 (シンキング) ● 課題発見力 ● 計画力 ● 創造力
	協働的思考力		
	創造的思考力		
姿勢・態度	レジリエンス	主体性を持って 多様な人々と 協働して学ぶ態度	チームで働く力 (チームワーク) ● 発信力 ● ストレスコントロール力 ● 柔軟性 ● 傾聴力 ● 規律性 ● 状況把握力
	リーダーシップ		
	コラボレーション		
経験	自己管理		前に踏み出す力 (アクション) ● 主体性 ● 実行力 ● 働きかけ力
	対人関係		
	計画・実行		
アンケート	力を入れたい事		何を学ぶか どのように学ぶか どう活躍するか
	学修状況・授業満足度		
	進路意識		

本稿では、これらの測定項目のうち、①思考力、②姿勢・態度、③経験の三項目のを対象とし、パネルデータを用いて、学年進行によるスコアの推移を確認することとした。

① 思考力スコアの推移

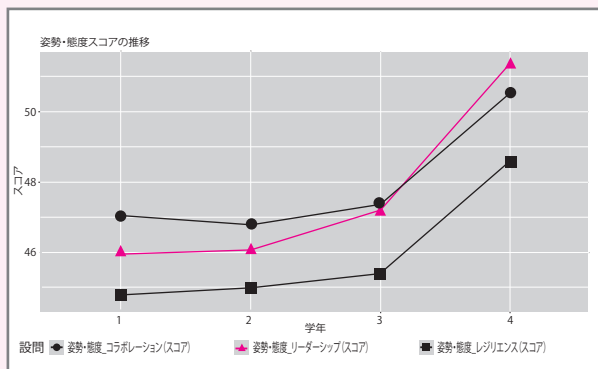
下図は各学年における異なる種類の思考力スコアの平均値の推移を示している。それぞれの線は、創造的思考力、批判的思考力、協働的思考力、そしてこれらの総合スコアを表している。全体的な傾向として、批判的思考力は年次と共に一貫して向上している。また、創造的思考力については、2年生から定位する傾向があった。これは、学年の進行に伴う学習内容の変化や学生の関心のシフトに起因する可能性があり、創造的思考力の停滞を防ぐために、創造的な活動やゼミナール等を続けることが有益かもしれない。特に卒業に向けた学びが個別になりがちな時期に、創造的な活動機会を確保することが効果的である可能性がある。



② 姿勢・態度スコアの推移

下図は各学年における異なる種類の姿勢・態度スコアの平均値の推移を示している。それぞれの線は、コラボレーション、リーダーシップ、レジリエンスの各スコアを表しており、初期の学年では大きな変化が見られず、特に後半の学年で急激に上昇する傾向が見られる。

コラボレーションとリーダーシップについては、学年が進むにつれて徐々に向上し、特に3年生以降での向上が顕著であり、レジリエンスの向上は4年生での急激な上昇が特徴で、これは学業や社会に出るための準備

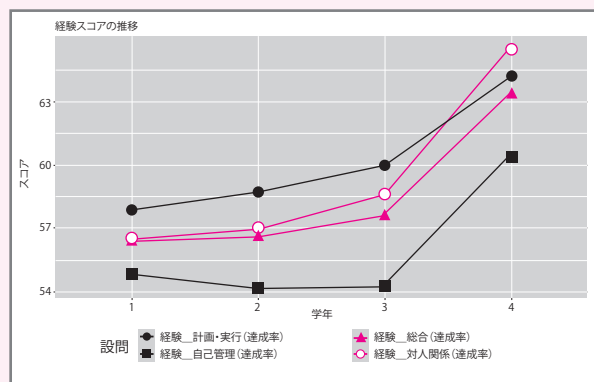


期間でのストレスと挑戦に直面していることに起因していると考えられる。これらのスコアを早期に向上させるためには、低学年のうちからリーダーシップや協働の機会を意識的に増やし、また、困難を乗り越える経験を積極的に促すプログラムを導入することなどが考えられる。

③ 経験スコアの推移

下図は「経験スコアの推移」を示しており、各学年の経験に関連する4つの側面（計画・実行、自己管理、対人関係、総合）の達成率スコアを示している。初期段階ではスコアの変動が少ない一方で、3年生以降、特に4年生での急激なスコア上昇が見られる。このことから、学年が上がるにつれて経験を積む機会が増えていることが明らかである。

1年生から3年生までの間に、学生が計画・実行、自己管理、対人関係といったスキルをより効果的に伸ばすためには、姿勢・態度スコアと同様に早い段階での実践的な経験の機会を増やすことが有効である可能性がある。また、4年生の段階での急激な成長を早めるために、低学年から継続的な自己管理と対人関係のスキルを強化するような教育プログラムの導入などが考える。



令和6年度

卒業生アンケートの結果について

教育開発支援委員会・教務課IR担当

I 実施状況

卒業生アンケートは2024年度で10回目の実施となる。アンケートは、すべての学部・学科の卒業生を対象に、卒業式・学位記授与式の会場で行っている。9カ年の実施・回答状況は次のようになっている。

年 度	卒業生数	有効回答数	有効回答率
2015年度	4,128	3,575	86.8%
2016年度	4,197	3,577	85.2%
2017年度	4,152	3,249	78.3%
2018年度	4,107	3,446	83.9%
2019年度	4,235	3,730	88.1%
2020年度	4,206	3,252	77.3%
2021年度	4,028	3,292	81.7%
2022年度	3,794	3,276	86.3%
2023年度	3,904	3,166	81.1%
2024年度	3,846	3,341	86.9%

II アンケート結果の概要

(1) 満足度について

本稿では卒業生アンケートで設定している設問項目の内、学生の満足度に関する設問項目に注目してその傾向を探ることとした。関連する設問は以下の8つである。それぞれについて (1) 満足している、(2) ある程度満足している、(3) あまり満足していない、(4) 満足していない、の4つから1つを選択して答えてもらった。

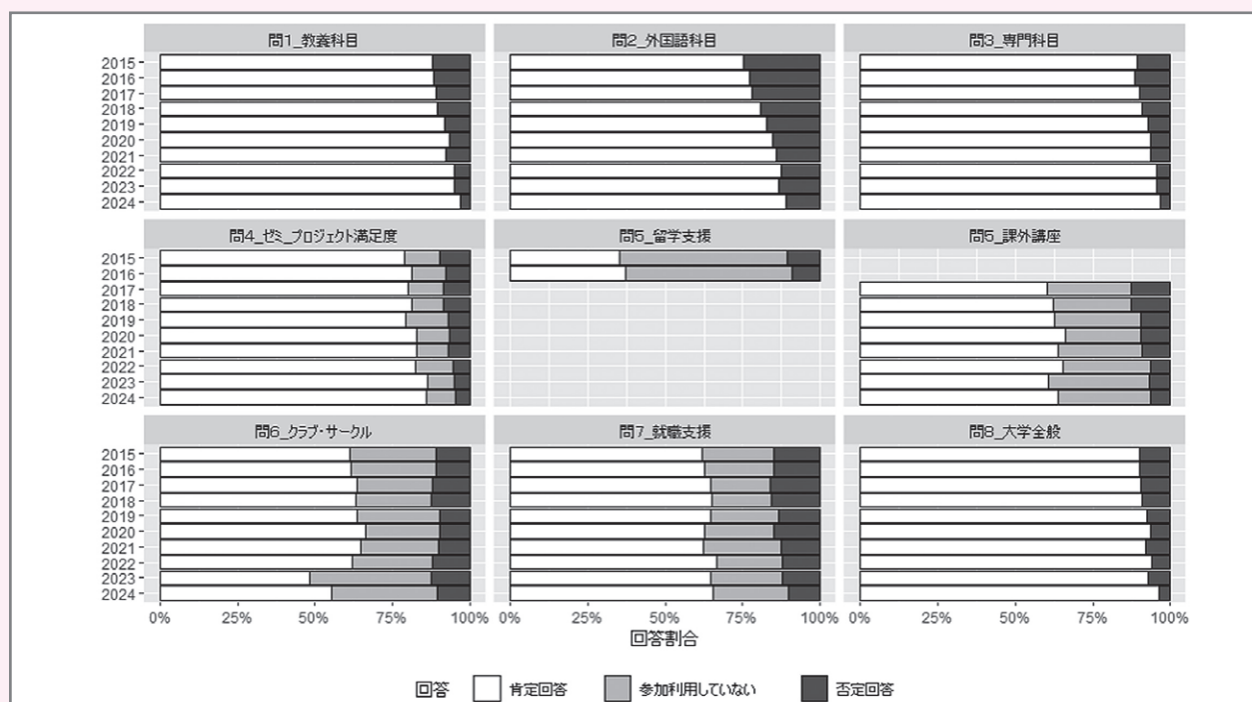
設問番号	設 問
問 1	授業(教養科目)について
問 2	授業(外国語科目)について
問 3	授業(専門科目)について
問 4	授業(ゼミナールまたはプロジェクト)について
問 5	国際交流・留学支援について(～2016年度) 各種課外講座等(資格取得支援、各種試験対策等)について(2017年度～)
問 6	課外活動全般(クラブ・サークル等)について
問 7	就職支援について
問 8	学生生活全般を振り返り、専修大学に在籍したことに満足していますか

※ただし「国際交流・留学支援」については尋ねる項目は、2017年度卒業生からは「各種課外講座等」の満足度を問う設問へと変更されている。

回答内容を肯定的なもの、否定的なもの、参加・利用していない、の3つに整理して9年間の変化をグラフにすると次のようになる。

正課の授業に関する設問である問1～問4について、否定的な回答の割合が年々減少していることがわかる。また、本年度の結果はアンケート回収率86.9%と高水準であり、集団全体を説明する代表性は十分であると推測できることから、これ以上ないほどに正課授業に対する満足度は高いと言ってよいだろう。

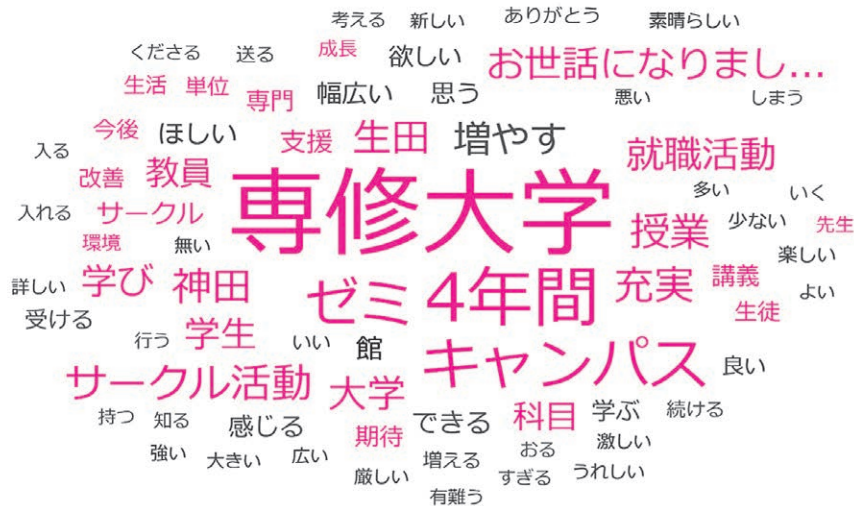
また、正課外活動や就職支援、総合的な満足度を表す問5～問8についても、肯定回答の割合が大きく、学生生活全般について高い満足度を持って卒業してい



ることが分かる。2023年度卒業生はCOVID-19の影響が最も大きかった2020年に1年次であり、オンライン授業の実施やサークル・体育会活動の制限などがあった影響からか、否定回答と「参加利用していない」学生の割合が増加していた。本年度の卒業生では若干の回復傾向は見られるものの、以前に比べてまだ肯定回答比率が低くなっていた。この回復傾向が来年度以降も継続するか否かについて注視する必要がある。

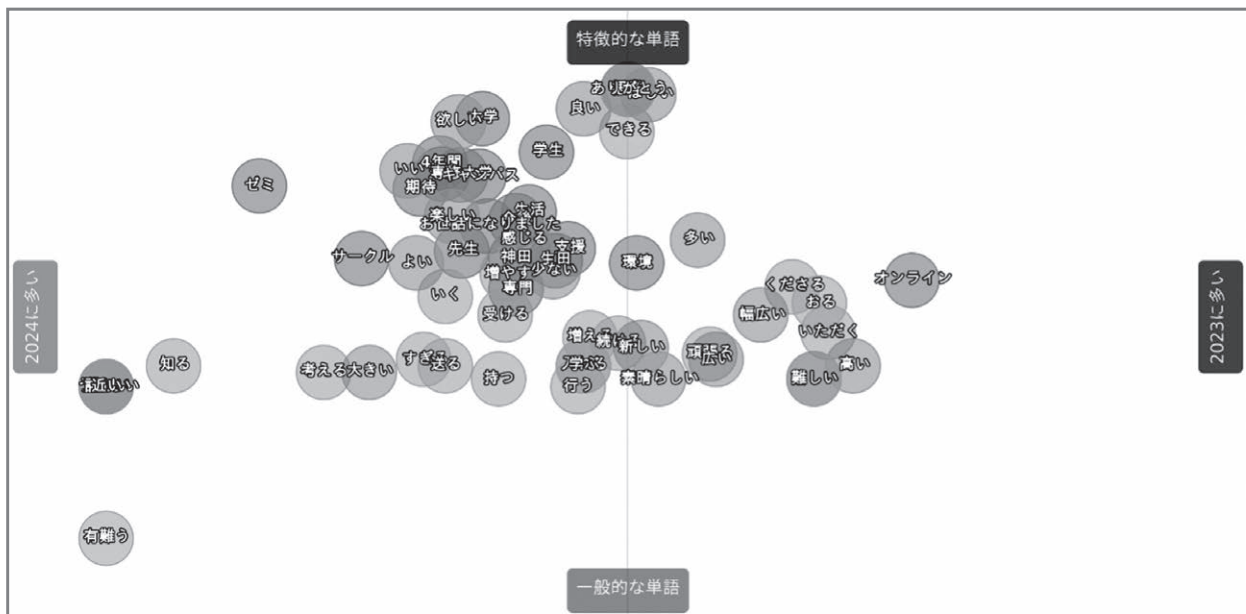
(2) 自由記述のテキスト分析

次に、自由記述欄の傾向を知るために、記入された言葉をテキストデータにして分析した。データにしたものから名詞、動詞、形容詞のみを抽出して出現頻度をカウントし、wordcloudを用いて可視化したのが次の図である。昨年度まではコロナ禍についてのワードが頻出していたが、今年度はこれらのワードが大幅に減少しており、コロナ禍の影響は一定程度収束したと考えることができそうだ。



続いて、昨年度の同一設問の回答と本年度の回答のワードの比較をしてみると、「オンライン」の使用比率が減少しており、コロナのワードをほとんど見られなくなっていた。また、「ゼミ」や「サークル」と

いったワードが2024では大幅に増加しており、(1)で指摘した回復傾向が今後こういった推移をするのか注視していく必要がある。



※ユーザーローカル AIテキストマイニング(<https://textmining.userlocal.jp/>)による分析

卒業生アンケート各設問の集計結果は、教職員用コミュニケーションツールMicrosoft Teams内の「専修大学ライブラリ」に掲載しています。ぜひご覧ください。

教育開発支援 NEWSLETTER

専修大学教育開発支援委員会広報誌 第51号 (Vol.26 No.1)

発行日 令和7年11月30日

発行者 専修大学教育開発支援委員会

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL.044-900-7857 FAX.044-900-7856

E-mail fd@acc.senshu-u.ac.jp

編集協力 (株) 芳文社